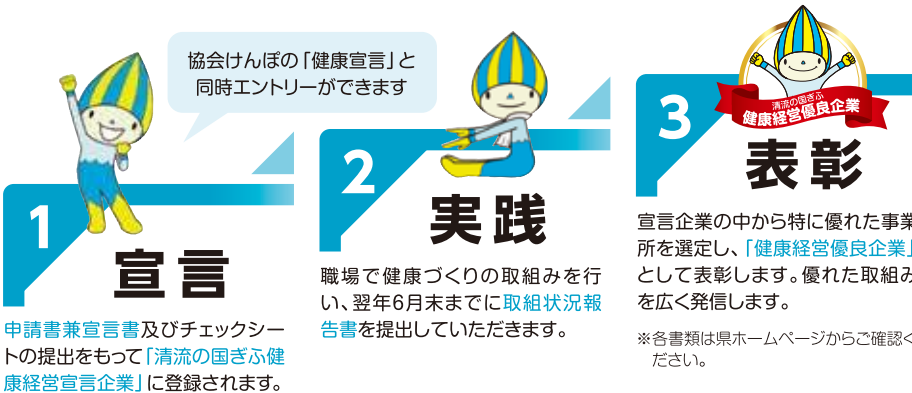


清流の国ぎふ健康経営推進事業 従業員の健康は 企業の健康!

県では、誰もが健康で元気に活躍できる社会の実現を目指し、特に働き盛り世代の健康づくりを推進する取組みとして、「清流の国ぎふ健康経営推進事業」を実施しています。

健康経営に積極的に取り組む姿勢を「清流の国ぎふ健康経営宣言」として表明した企業に対し、県ではさまざまな機関と連携しその取組みを支援しています。また、優れた取組みを行った企業を「健康経営優良企業」として表彰しています。 ※健康経営を支援する関係機関については、18ページをご覧ください。



岐阜県民(働き盛り世代※1)の健康状態

※1/40~69歳のデータに基づく数値
※2/健康状態が良いほうが上位

	BMI 25以上	空腹時血糖 126以上	HbA1c 6.5以上	LDLコレステロール 140以上	収縮期血圧 140以上	拡張期血圧 90以上	尿蛋白 +以上
全国における 岐阜県の順位 ※2	6位 28.2%	2位 4.8%	9位 6.1%	24位 30.8%	21位 17.1%	19位 14.0%	31位 3.2%
全国(参考)	30.4%	5.5%	6.4%	31.2%	16.4%	14.0%	3.0%

出典/第9回厚生労働省NOBデータ(R3)

働き盛り世代の健康は将来の健康状態に影響します。
働き盛り世代の健康づくりには、働きながら自然と健康づくりに
取り組むことができる職場の環境が重要です!

企業が健康経営に取組むメリット

- 医療費の抑制(疾病、事故、労災等のリスク減少)
- 生産性の向上(組織の活性化、仕事満足度の向上)
- 人材の定着、優秀な人材の確保
(顕彰や公表によるイメージアップ)

金融機関や投資家、ビジネスパートナーのほか、労働者、消費者等も健康経営に注目しています!



業績向上

企業価値
向上

健康経営で、今すぐ働き盛り世代の
健康づくりを始めましょう!

※「健康経営」は、特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です。

県HPは
こちら



令和6年度 清流の国ぎふ
健康づくり優良活動表彰



清流の国ぎふ
健康づくり優良活動

健康経営優良企業
(中小規模)部門

ブリヂストンBRM株式会社 関事業所

POINT

- 高い特定保健指導実施率と
健康状態を把握するための充実した環境
- 会社独自の体操とウォーキングイベントへの積極的な参加
- 幅広い禁煙サポートで無理なく卒煙を促す

DATA

〒501-3923 関市新迫間36
TEL.0575-22-2970

創 立/2009(平成21)年1月
※前身会社設立/1962(昭和37)年7月

代 表 者/代表取締役社長 岩崎孝二

従業員数/57名(男性53名・女性4名)

働 き な が ら 健 康 づ く り が
で き る 職 場 環 境 が 充 実
多 角 的 な 健 康 経 営 の 取 組 み



たちに合った体操を行って、より効果を実感しています。また、大きな声を出して、表情筋をほぐす「声磨き体操」も実施しています。口腔内環境の向上や、発声によって脳の幅広い領域が刺激されて脳が活性化される効果もあります。



その他にも、ごみを拾いながら約8キロもの距離を歩く地元ウォーキングイベント「田原ふれあいウォーキング大会」に事業所チームとして参加しています。ウォーキングに関しては、健康保険組合の健康支援アプリ「Peppup(ペップアップ)」も有効活用。従業員同士でチームをつくり、日頃の歩数を競い合うなど、運動機会を創出しています。

さまざまなプログラムで 禁煙支援 これからも健康への 意識向上を促す

健康保険協同組合と協働しな

「自力で卒煙プログラム」というプログラムもあります。このプログラムでは、禁煙の仕方を紹介するマンガを読んだり、同僚や家族にサポートしてもらったりしながら、複数人で協力して卒煙を目指します。その他にも、オンラインでの医師の診察や「コチンパッ」の使用、外部講師を招いた禁煙

仲間と一緒に
卒煙を目指す



セミナー等の支援もあります。健康に関するさまざまな取組みを経て、澤井真也工場長は「従業員同士が健康について話し合うようになり、お互いの健康状態を気にかける姿が見受けられる」と実感。従業員にとって、健康がコミュニケーションのツールになっています。健康経営を主導する竹内由里さんは、今後の展望について「各従業員としっかりとコミュニケーションを取って、健康に興味を持ってもらえる環境を築きたい」と話します。

CHECK

1990年に前身のTRK名古屋工場が関市に移転し、新工場が操業開始。99年にブリヂストンTRKとブリヂストンSRCが合併し、新親会社ブリヂストンBRM株式会社が発足しました。2020年から「社員とその家族が健康でいきいきと笑顔で仕事や諸活動に取り組んで欲しい」との思いから、健康経営に注力。会社方針の一つとして、健康経営を継続して推進しています。



健(検)診実施体制や 職場環境を整備し 従業員の健康管理を支援

特定健診(がん検診(胃・大腸・肺・子宮頸乳の5種)の受診率は100%、特定保健指導実施率は80%を維持するなど、社員の健康管理に注力。50歳以上の従業員を対象にした、自身の運動機能をチェックする「ロコモ健診」も行っています。



メンタルヘルスケアにも力を入れており、ストレスチェックの実

施率は100%。ブリヂストングループ会社による外部相談窓口も設けています。また、保健所が提供する健康関連の資料を社員食堂に掲示するなどして、日頃から食事面での健康管理も意識できるように工夫を凝らしています。事業所内には体重計、血圧計を常時設置。「脳年齢計」や「血管年齢計」は、全国の系列事業所のなかで順番に回して使用できます。脳年齢はパソコンの画面をゲーム感覚でタッチして、正確性や速さを計測。血管年齢は指を測定器にかざすだけで測定できます。健康アプリと連携した体重測定チャレンジも行っています。また、本社作成の健康経営ガイドブックを全従業員に配布。毎月2回、健康増進活動に関するさまざまな情報を紹介する「健康つうしん」を発行するなど、様々な手法で従業員の健康管理の意識向上を促しています。

会社独自の体操を考案 地元のウォーキング イベントにも参加

運動面では、5年ほど前から、転倒や腰痛の予防を目的とした会社独自の「ブリヂストン体操」を毎朝、社内でも実施しています。タブレットに動画を流す形で行っているため、各従業員が「二つの動きをしっかり確認しながら体操できます。以前はラジオ体操を行っていましたが、下半身を中心に腰回りの筋肉に効く自分

ガイドブックで
健康に関する
情報を発信

